

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370201446		
法人名	有限会社 神苑		
事業所名	グループホーム神苑 すみれユニット		
所在地	熊本県八代市松江本町2番50号		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市南区馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成25年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・充分な職員配置をする事で、鍵をかけず身体拘束をしない、又、私らしい暮らしが出来るようにをケアの方針としてお手伝いしています。 ・本人様の希望により、行きたい所(買い物、生家訪問、墓参り)等の外出支援や、年二回の家族会で日帰り旅行や外食などを企画してます。 ・季節ごとのさまざまな行事(初詣、雛祭り、花見、紫陽花見学、夏祭り、敬老会、運動会、妙見祭り見学、クリスマス会)等、利用者様と一緒に楽しめます。 ・保育園児の訪問や、地域の子供たちとの定期的な触れ合いが出来ます。 ・狭いながらも花壇や畑があり、季節ごとの花や野菜作りを楽しめます。 ・家庭的な雰囲気の中で、その方の持っている力を可能な限り生かされる様に役割割り(買い物、食材きり、掃除、洗濯物干し、ゴミ出し、回覧板や市報配布、野菜作り等)を持って頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度の取組として家族旅行の達成や事業所周辺の散歩、近所のケーキ屋さんの協力を得られ好みのケーキが買える取組がなされています。利用者、家族等の意向を把握されケアプラン作成が行われ、それに沿った介護計画が立てられ定期的にカンファレンスを行い見直しが出来ています。また、ホーム便りを月1回発行され利用者、家族、各関係機関へ配布されています。回覧板等は回されていますが近隣との関係作りに努力されています。地域の高齢化も進み難しいようです。ケアに対しても可能な限り実践しながらも、常に問題意識を持ち指導されています。運営推進会議の内容や途切れがちな馴染みの関係作りなど停滞してきた部分の取組が今後課題として取組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体ミーティング時には必ず唱和し、施設長の個人面談等でも共有出来る様に確認している。	法人全体の共通の理念として、介護に必要な人となるための人材育成がなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や市報配布を毎月させて頂いたり、町内の清掃等には必ず利用者と出席している。地域の行事にも出来るだけ参加する様に努めている。又ホームの畑で出来た野菜を利用者と共に隣近所におすそわけに行っている。	地域の事業所としての認知度は高まったようですが、事業所の役割についての関心度が低いのではとの考えられ、きっかけ作りの取り組みとして訪問者を待つ姿勢から出かけて行く事に取り組みまれ散歩の回数を増やしたり、公園の清掃活動に参加の意向を示す等の努力をされています。	事業所が孤立する事無く、活動的に地域へ出て行かれ地域にとって頼りになる必要な事業所となられる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は看護学校から11名のボランティアの受け入れや、資格取得のための短大生の研修受け入れをしたり、ホーム便りの回覧での相談の呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議では、評価結果の報告や、目標達成計画の達成状況を毎回報告し、意見を頂き繁栄させる様に取り組んでいるが、意見があまり出ないのが実状である。	活動報告が中心となっており、地域との関係を広げたいとの思いから独居の方の支援方法など事業所が出来る役割を模索しながら問題提起がなされているようです。運営推進会議の内容についても検討段階にきているようです。	運営推進会議がより事業所の発展や地域の高齢者の支援体制に繋がるよう期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム八代ブロック会や、運営推進会議又、更新申請時など、入居状況等の報告をしている。対応が難しい家族の希望等について相談したり、又、事故報告は直接行って意見を頂いて連携を図り、協力関係の構築に努めている。	ブロック会や市町村への報告等で関係作りは出来ていますが、市町村職員の異動で継続性が途切れることがあるようです。問題事例があっても個人情報が壁になることもあり、スムーズなネットワーク作りが出来れば事件、事故防止に繋がると考えられ市町村のリーダーシップに期待されています。	ネットワーク作りは根気のいる作業です。今後の努力に期待いたします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も夜間帯以外はしない様にし、権利擁護や身体拘束に関する研修会への参加や、勉強会の実施、申し送り時やカンファレンス時に確認している。	態度や言葉かけ以外にも記録の表現においても、人権や尊厳に配慮されているか等細かく指導され常に問題意識を持たれ対応されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルに沿って防止に努め、研修会や、カンファレンス・全体ミーティングにおいて、高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料の掲示や、研修会への参加、必要性のある方には活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・特にリスク面や利用料金、重度化等は時間をかけて説明する様にしている。・契約前に契約書を持ち帰って頂き、ある程度理解して頂いた後契約時に説明する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族会で意見を頂いたり、外部評価でのアンケートでの意見を、運営推進会議やミーティング等で話し合い、反映するように心がけている。 利用者からは、引き出し方が悪いのか、感謝の言葉ばかりで、意見が出ないのが実状だ。	家族からの意見が少ない事に問題意識を持たれ、退所時アンケートを取られたり、自分が家族だったらの思いで対応されているようです。利用者のより高いクオリティを求め努力されているようです。	常に現状に満足されることなく質の向上を求め努力されているようです。これからもこの思いで継続されることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングを司会と記録者がテーマを決めて実施し、意見や質問の時間を必ず全員に設け反映させている。又年1回の個人面談でも意見や提案を聞いている。	年1回の個人面談や職場環境に対する意見や看取りに対する意見等が出され、職員の意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には(介護支援専門員、介護福祉士等)金一封を出したり、費用の援助や、外部研修参加は勤務扱いにしている。又毎月の全体ミーティングや、行事等に参加したりして把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要性のある外部研修等や、職員が希望する研修を把握し、勤務調整や研修手当を支給して支援している。研修後は研修報告書に沿ってミーティングやカンファレンス時に報告を兼ねた勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム八代ブロック会で、定期的に研修会や交流会が開催されるので、必ず出席し、今年度は県の指導者とのグループホームを視察した。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や体験入居を行い生活状況の把握、本人の思い、悩み事、不安などを理解し安心して援助を受け入れて貰える様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時、契約時に家族が困っている事、入居に対して要望や不安などを把握し、ホーム側の目指す取り組みや考え方を明確に示し、対応の仕方など話し合っ信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の緊急性や一番必要としている事を見極めるように職員全員での観察その時々での対応の変化の把握に努めるようにしている。他施設の情報提供も合わせ対応している。場合によっては他サービスの利用を進めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は節度を持って、家族のような付き合いを心がけている。本人の出来る事を職員で話し合い把握しいろいろな役割を持って頂き、常に感謝の言葉を出し、やりがい、喜びを持って生活していただくように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援する一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が難しい家族にも苑の状況を担当者からホーム便りにて報告している。面会時には本人を交え家族と職員が交流を持ちいつでも来苑出来る雰囲気作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や、知人等の把握に努めているが、思いが表出される方には対応できているが、出来られない方には対応が出来ていない。	同窓会への参加支援や利用者の希望には可能な限り対応されていますが、希望を言われない方や長期入所の利用者の馴染みの関係が途切れた方の支援に苦労されているようです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や認知症レベルを考慮して、食席や居間の座席を考えている。居室でテレビを見る方は時々他の方を誘われ一緒にテレビを見られるなど個々の良い関係作りができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居時は、生活状況の支援内容等を情報提供し、きめ細かい連携に心掛けている。退去時アンケートの実施や、最低1回は面会に伺っており、家族にはいつでも相談して頂きたい旨のご案内をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活していく中で本人からの発言、行動を大切に、本人の思い、希望に副えるように常に職員で話し合うようにしている。難しい方は家族からの情報やその方の生活歴の把握に努めその方らしい暮らし方が出来る様に努めている。	利用者が望むこと、嫌なことを担当者が思いの把握に努められ全体で可能な限り実践されています。ケアプラン更新時には、現在の援助内容、今後の希望、終末期の方針も含めた意向の把握がなされています。	利用者、家族の意向にも変化があります。そのつど確認されると良いでしょう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りやこれまでのサービス提供施設からの情報提供を通じ把握に努めると共に本人の発言の中より把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の生活状況や日々の関わりの中で観察し、職員、本人と話し合いながら好きな事、得意な事、現有能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族より面会時やアンケートにて要望、思いを聴き、主治医より留意事項を伺い、担当者より現在の状況やニーズを提案し、カンファレンスでスタッフ全員で話し合い色々な立場での意見交換をしあい本人の思いを中心に介護計画の作成に努めている。	介護計画に対する定期的なカンファレンスでそのつど計画を変更され、個別対応がされています。意向の把握からケアプラン作成、介護計画、評価までの一連の流れが来ています。	個別計画が多くなるほど利用者、家族の満足度が高まり、ケアの質の向上に繋がると考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が個々の経過記録に出来る限り詳しく記入し職員全員が共有し、把握に努めている。その方の状態に一番良いケアをその場で話し合い記録に残し、カンファレンスで話し合いプランの変更実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には通院などは家族対応にしているが、そのときの本人や家族の状況で代理付き添いを行なっている。本人や家族の希望に合わせて買い物 や自宅への付き添うなど柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との定期交流会、町内清掃、ホーム便りや市報の配布などを継続しているが家族以外の訪問が少ない。気軽に来苑でき、お互い助け合う関係になるよう地域に働きかけていく努力を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を希望される家族には、往診可能なかかりつけ医を紹介している。今までのかかりつけ医を大切に、受診時は受診連絡表を使い症状の報告を行い、必要時はスタッフも同席を行い適切な受診・検査・内服の検討などを受けられるように、医療機関と連携を図っている。	基本的には、かかりつけ医の継続で家族が付添い病院受診介助がなされています。家族き添いが困難な場合は事業所に対応され、そのつど電話等で病院受診結果について説明されています。また、家族付添いや事業所対応時、受診連絡表を活用されています。受診連絡表は利用者の状態報告、主治医からのコメントが記載されるようになっており医療連携の取組がなされています。	受診連絡表の活用継続により医療連携し利用者の健康管理ができることを望みます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を記録や申し送りなどで看護職員に伝え観察を怠らないようにしている。又定期訪問の看護師に症状を詳しく伝え相談し助言を貰い、早期に適切な受診や看護・検査などが受けられるように援助している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時の情報提供、退院時の主治医説明への同席、担当看護師との情報交換を行い、早期退院へ向けての支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と現在の状況・今後起こりうる状態について折に触れ話し合い、終末期について意見を聞いている。新人職員は事業所で出来る事の周知の確認・終末期の勉強を行っていない。	重度化や終末期に対しては、アンケートを取られたり折りに触れ話し合いがなされており、利用者、家族等の意向確認がされています。今年度は主治医、訪問看護、家族の協力もあり2人の看取りが行われました。	看取りの経験をされたことで、スタッフ間で良かったこと、反省すべきことについて共有されより良い看取りができるよう研修を積み重ね取り組まれることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急講習を全職員が受けるようにしているが、新人職員はまだ受けていない。又、訪問看護と定期訪問・24時間電話相談体制の契約をし助言や指導を受けているが全員実践力を身に付けているとは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通して地域の協力体制、又タクシー会社との協力体制作りを努めている。消防署の協力を得て年3回の訓練を実施地(うち1回は運営推進委員参加での訓練)を行っている。夜間帯の避難には不安が有り特に2階からの避難はまだ検討中である。	24時間体制のタクシー会社が併設しており、災害時はいつでも連絡し駆けつけられる協力体制がなされています。また、タクシー会社の協力体制の勉強会の必要性や2階の利用者をどのようにして避難させられるか常日頃から災害対策について考えられています。	2階に居住されている利用者が安全に避難される方法についての対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人権を尊重する言葉かけや対応には常に気をつけ、ミーティングやカンファレンスで話し合うようにしており、勉強会にも出席している。しかし時折不適切な言葉かけが出ている。	利用者に対する言葉かけについては新人職員には問題はないが、馴染み関係になると不適切な言葉かけが見受けられ、そのつど注意されています。カンファレンス、ミーティング等で課題に上げ話し合われ、課題に対し共有され1人ひとりのプライバシー保護に努められています。	カンファレンスやミーティング等を活用され利用者の尊重とプライバシー保護について勉強会が行なわれ、スタッフ間で共有しケアの質の向上を望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常日頃信頼関係作りに取り組み、希望を表出できる環境作りを努め決定権を委ねるようにしている。希望を表せない方には家族に意見を頂いたり、本人の思いに近づけるように職員で話し合う努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としての1日の流れは決まっているものの、基本的には本人のペースを大切に、過ごして頂くように支援している。自分の時間を大切に居室で過ごされる方もおられるが、あまり自分の希望を言われる方は少ない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から頂いた装飾品をされたり、お化粧を毎日或いは外出の時されたりとその方にあった身だしなみを支援している。着衣は出来るだけ本人に選んでいただき、難しい利用者には生活嗜好などを考慮し職員が選ぶこともある。家族にお願いし馴染の美容室でカット、パーマ等のおしゃれが出来る様にお手伝いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の現有能力に合わせ、食材切・配膳・食器洗い・味見などして頂き得意分野を引き出すよう努力している。個々の好みを把握しその方にあった食事の形態や利用者と一緒に考える献立作りを心がけている。	10時の茶話会時2ユニット利用者全員希望を聞き献立が決められています。スタッフと一緒に2ユニットの利用者2人~3人の方々と買い物へ出かけ食材選びがなされています。また、利用者の能力に応じスタッフと一緒に調理の下ごしらえや味見を含めて食事の準備がなされています。外食や行事食も適宜行われ楽しみにされています。	食を楽しむことは人生最大の喜びであり、今後もより良い食事形態の努力を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表において食事や水分量の把握をし、個々の目標分量に達するように支援している。個々の状態に合わせた食事の形態や量・好みを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けと個々の力に応じた支援を行い清潔維持に努めている。個々で義歯の管理をされておられる方の口腔状態の確認はあまり出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間や外出時は安眠や安心目的で漏れ予防を優先する事が多いが、排泄チェック表で個々のパターンを把握し、自尊心に配慮した声かけに十分注意し失敗の減少に努め、トイレ誘導をしている。時間帯に合わせた排泄用品の選択をし、髪パンツ～布、大パット～少パット等へ行こう出来る様に支援している。	排泄チェック表を確認しながら1人ひとりの個々に合わせ時間ごとに排泄誘導がなされています。また、入所時は紙パンツを使用されている利用者に対し、排泄誘導時尿漏れが少ないことが確認できたため、利用者とは相談し布パンツへ移行されコスト面でも努力されています。	可能な限り1人ひとりの力や排泄チェック表、表情等を確認しながら排泄誘導がなされ快適な生活が送られることを望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給(毎朝の牛乳、毎食の汁物など)や、毎朝のラジオ体操、おやつの前の歩行訓練、又腹部マッサージ等を行い体を動かし、なるべく薬に頼らない努力をしているが便秘をしておられる方は多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を言われる方が少なく入浴日や時間を原則的に決めてしまっており個々の希望に添った入浴の支援が出来ていない。季節に合わせた菖蒲湯、柚子湯、入浴剤を使用するなど入浴を楽しんで頂くよう努めている	基本的には週3回の入浴介助が行われています。入浴を拒否される利用者に対しては、お風呂ですとは言わずさりげなく声かけし浴室まで誘導されています。夜間入浴は行われていませんが、夜間入浴も対応できればと考えられています。	個々の意向をくみ取り洗身部位や温度、時間等の配慮を望みます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	過去の生活習慣を踏まえ、居室静養されたり、状態に応じて午睡をされ生活リズムを継続する支援を行なっている。夜勤者はその時の気温に応じて冷暖房、寝具の調整に気を配り安眠されるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書は個々にファイリングし、服薬時は職員同士声掛け確認、飲み込みまでの確認を必ず行なっている。特に内服変更時は気をつけ観察し症状の変化を見逃さないように努めている。しかし職員全員が薬の目的・副作用等に関して把握していない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝と昼の茶話会には好みの飲み物(コーヒー・ココア・紅茶など)を提供するようにしており、好みの物を買いに仕掛ける楽しみも提供している。又個々に応じた毎日の役割(食事の準備・掃除・洗濯物干し畳み・新聞取り・回覧板や市報配り・買い物・畑の手入れ等)をお願いし、感謝の気持ちを常に伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等の希望などすぐ対応することにしておいているが、外出の希望を言われる方は少なく、家族から話を聞いたり、本人との話の中より拾い出す努力をしている。今年度は万葉の里公園に手作り弁当を持って出かけ、とても喜んでおられた。家族がもっと参加されるような呼びかけが必要であった。	利用者全員の外出支援はできていませんが、天気の良い日は中庭やベランダで外気浴を楽しんでいます。また、そのつど外出希望を聴かれ対応されています。日帰りバス旅行では8割の利用者さんが参加されています。花見、買い物、外食等の外出支援もできています。外出後の利用者さんの表情はとても良いと評価されています。	表現や身体上問題のある利用者さんについて1日1回は外気欲、散歩等を行うことで気分転換が図られるかと考えられます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で小額のお金を所持されている方もいるが、ホームでお預かり管理し、買い物の外出支援時には、必ず自分で支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の他に、簡単な絵手紙を職員と一緒に作り家族や知人に出したり、届け物があった場合には必ずお礼の電話を掛ける支援を行なっている。又面会の少ない利用者には電話の促しなどの支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、階段の踊り場、居間に季節感のある職員手作りの物を飾ったり、日めくりカレンダー、手作りカレンダーを飾り季節や日付けの戸惑いが少ないよう工夫をしている。温度や湿度は常に気をつけるようにしており心地よい環境を心がけている。	スタッフが庭から花を取り、利用者さんと一緒に花生けを行い空間作りが行われています。共用空間に台所も設置され五感が刺激され食欲増進に繋がっています。また、トイレへ入ると自動的に電気が点灯するようになっていますが、利用者さんにとっては不評だったようです。	居心地良く過ごせる空間作りの継続を望みます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では自分の好きな場所に座られ気のあった方と話をされたり、食卓で新聞を読まれることはあるが一人で過ごしたいと思われる時は居室に行かれることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と話し合い馴染のものを居室に置かれるように勧めしている。仏壇、家族の写真、趣味のものなど飾っておられる方もいる。居間で過ごされる方が多いが、テレビ視聴、読書、日記を書くなどその方が過ごしやすく本人と話し合い工夫している。	利用者、家族の意向を十分に取り入れられ、思い出の写真や使い慣れた家具等も配置され安心して過ごせる空間作りができています。また、家族の同意を得られ安全対策にも配慮されていました。	個々に合わせた安全で気持ちよく過ごせる空間作りの継続を望みます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの現有能力を把握し、起こり得る混乱や失敗をカンファレンス等で話し合い、事故を未然に防ぐよう環境整備に努めている。分かりやすい目印をし戸惑いを出来るだけ少なくするように工夫している。		